

あなたの地区の接続率

%

裏面に参考データが
ありますのでご覧下さい。

ぐんま集排水だより



岩下・矢倉地区 処理施設全景

東吾妻町 岩下・矢倉地区

**岩下・矢倉地区について
教えてください。**

東吾妻町は、平成18年3月27日に旧吾妻東村と旧吾妻町が新設合併した町で、総面積が253.65km²、総人口が17,243人（平成20年3月末）、県北西部に位置し、前橋まで約40km、東京都心までは関越自動車道の渋川伊香保温線を利用し約170km、周囲は榛名山や岩櫃山・浅間隱山など1,000m級の峰々が連なっています。名勝地吾妻峠を有する吾妻川が東西に流れ、そこに多くの支流が注ぎ、「日本名水百選」に選定された箱島湧水もあり、水と緑に恵まれた自然環境の豊かな町です。

岩下・矢倉地区はJR吾妻線・国道145号線・一級河川吾妻川が平行し東西に伸び、この国道沿線約4kmにわたり集落があり、処理施設は町役場から長野原町方面へ約5km、国道と吾妻川の間で町のシンボルでもある岩櫃山を見上げる位置にあり、処理水は吾妻川へ放流しています。

**事業への取り組みについて
教えて下さい。**

岩下・矢倉地区は住民の積極的な取り組みにより、農業集落排水事業として平成11年度に採択を受け、計画戸数405戸、計画人口1,610人、計画処理水量459m³/日、総事業費18億1千8百万円で平成15年度末に一部供用開始し、平成16年度に建設事業を完了しています。処理方式は「オキシデーション（ディッチ方式）

で、汚泥については脱水・乾燥・一次発酵・ペレット化し15kgで袋詰めを行い、臭気も少なく持ち運びも容易なため、処理区内の希望者に限定し年1回配布していますが、希望数には不足となる状況です。

**今後の課題等について
お聞かせ下さい。**

町の汚水処理計画は、公共下水道（単独1処理区）、農業集落排水（2処理区）、合併処理浄化槽の3つの事業で実施しており、農業集落排水箱島・岡崎地区と岩下・矢倉地区は建設事業が完了し維持管理が主な事業で、接続率のさらなる向上が必要であり、広報等による啓発活動のほか、未接続者への接続依頼文書の送付や各事業別の維持管理費財源状況の公表など積極的に進めています。

平成11年度に供用開始した箱島・岡崎地区で、「名水百選」に選ばれホタルの生息地としても有名になり、各地から観光客も訪れる箱島地区は、住民の意識も高く接続率も高い状況であり、地区住民の活動を積極的に紹介して接続率向上に努めたい。

今後は、汚水処理施設の普及率と処理率の向上に努めると伴

に、適切な維持・運転管理を行なうため、より合理的な委託方法と管理方法及び運転方法を検討し、電気料をはじめとする管理費の削減に努めていきたいと思います。



親水公園

「群馬県汚水処理計画」の見直しについて

群馬県土整備部下水環境課

群馬県では、平成19年度から「群馬県汚水処理計画」の見直し作業を行つてきましたが、その原案がまとまりましたので、その概要を紹介したいと思います。

一 見直しの主旨等

計画の目的

「群馬県汚水処理計画」は、様々な汚水処理事業（下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽、コムニユ二ティップラント等）を効率的に配置し、生活環境の改善を図ることとともに、県民にとって最良の水環境を取り戻すこと、利根川の最上流県として期待される河川環境の整備を推進することを目的としています。

見直しの経緯等

本計画は平成9年度に策定し、平成16年度に見直しを行いましたが、それから5年程度経過し、また、平成15年度からの「平成の市町村合併」、平成17年から始まった「人口減少」等、社会情勢も大きく変化している中で、汚水処理事業を計画的、かつ、円滑に推進するため今回見直しを行つたものです。

なお、見直しにあたっては、平成29年度末での汚水処理人口普及率を「ほぼたけ群馬・県土整備プラン」で掲げた目標値である90%まで向上できるよう検討を行っています。

(表-1)

項目	前回(H16)	前回(H20)	増減
最終目標年次	平成27年	平成37年	
人口(万人)	208.9	184.5	△24.4
市町村数	58	38	△20

(表-2)

項目	前回(H16)	前回(H20)	増減
最終目標年次	平成27年	平成37年	
集合処理区数	299	222	△77
集合処理人口(万人)	193.4	164.2	△29.2
浄化槽人口(万人)	15.5	20.3	4.8

今回の見直しは、最終目標年次を平成27年から平成37年に改め、人口も約185万人へと減少する予想とし、市町村数も合併による38として取りまとめています。(表-1)

処理区数及び処理人口

集合処理区数は前回の見直しから77の大大幅な減少となり、集合処理人口も約30万人減少する計画としています。それに対しても浄化槽人口が約5万人増加する結果となっています。(表-2)

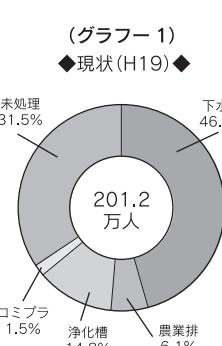
二 見直し結果

人口及び市町村数の変化

本計画は平成19年度に現状及率は68.5%(H19年度末)であり、全国では37位と低い状況にあります。(グラフ-1)

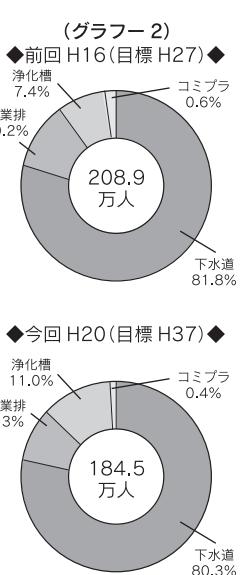
汚水処理人口普及率

①汚水処理人口普及率の現状
本県における汚水処理人口普及率は68.5%(H19年度末)であり、全国では37位と低い状況にあります。(グラフ-1)



最終目標年次における各事業

②長期計画のシェア
最終目標年次における各事業が受け持つシェアについては、下水道が1.5ポイントの減少、農業集落排水も1.9ポイントの減少、それに対して浄化槽が3.6ポイントの増加という見直しを行っています。(グラフ-2)



三 農業集落排水事業の動向

計画地区の動向

平成16年度の見直しに基づく平成20年度現在での未着手地域は約120地区ありましたが、今回見直しでは10以上の市町村で約60地区へと激減してしまいました。(表-3)

今後計画

これからは今まで以上に、下水道、浄化槽、そして農業集落排水の汚水処理3事業を地域の実情に応じて、効果的・効率的に進めいくことが必要です。

前回(H16)	237地区
H20の状況	完了100、廃止2、実施中14
今回(H20)	未着手 約120地区

そのため、県としても、これらの事業の実施主体である市町村に対する積極的な支援を平成21年度予算編成において要求しているところです。農業集落排水においても、本事業で整備を行つていくとした地域については、いち早く事業実施できるよう平成16年度までの10%補助の復元を目指して財政当局と折衝しているところです。

この「ぐるま集排だより」が本協議会員の皆様のお手元に届く頃には、ある程度の結果が出ていることだと思います。結果については、後日協議会の会合等において報告させていただきたいと考えております。

今後も会員の皆様におかれましては、引き続き農業集落排水の事業推進に対しても尽力、ご協力を願いいたします。

門貝地区農業集落排水事業

推進協議会(嬬恋村)
会長 黒岩富二

再び虫の飛び交う里を目指して
東吾妻町岩下地区居住 岩下・矢倉地区 水出栄治

門貝地区は、農業集落排水の対象戸数が40戸余りと嬬恋村の中でも一番小さな集落です。私たちの地区は、裏山からの湧水が集落内を流れています。私たちが子供のころはこの集落内を流れる湧水が農業用水として利用されましたし、生活用水として野菜を洗つたり私たちも水遊びをしていました。

しかし、農業集落排水が整備される直前は各家庭から排出される生活排水がこの農業用水と混ざつて流れていって、食物のカスや洗濯水の泡などが目に付く状況でした。

私たちの地区的農業集落排水施設は平成17年4月に完成し供用開始となりましたが、農業集落排水施設が整備されてからは以前よりも安心して農地を活用できるようになりました。さらに集落内を流れる水もかつてのような美しさを取り戻しつつあり、沢ガニやイモリなども子供のときのように頻繁にお目にかかるのではないかと期待しています。

供用開始から4年が経過しようとしていますが、「処理施設内も美しく維持している」と供用開始とともに推進協議会の皆さんで花壇の手入れや処理場の美化にも取り組んでいます。今年は地区の有志の方にご協力もいただき、花壇にはサルビアのほか嬬恋村の花であるリンゴの苗も植栽しました。

この地区で生活する人々が健康で快適な生活を送るために大きな役割を果たしているのが農業集落排水施設です。私たちの地区は、高齢の一人暮らし世帯の割合も高く過疎化が進んでおり、接続も思うように進んでいないのが実情ですが、地区内に清らかな流れを取り戻せるよう、全世帯の接続を目指して推進協議会の果たす役割は、ますます大切であると感じています。



各家庭の繋ぎ込みがさらに進み、加入者各位の快適な生活と、今は1日も早く再び虫が飛び交う里になることを心待ちにしております。

私が小学生だった昭和30年代の生活は、地区内の道路(現国道145号線)沿いに「せぎ」と呼ばれていた農業用水路が地区内をせせらぎとなって流れ、この地区的下流に広がる3~4haの水田につながり、梅雨時期から夏にかけて虫の飛び交う里となっていました。この頃の生活様式は、井戸水が飲料水や生活水であり、風呂や洗濯に「せぎ」の水を利用している家庭も多く見受けられました。この様な水利用の生活においては、生活排水の量も少なく流末は各家庭の浸透処理等で十分可能で有ったと思われます。

昭和40年代に入り、町営上水道が整備され、水使用量は年毎に増加し、排水が各家庭の流末処理では対応できなくなつてきました。

その頃から生活も日々向上して、洗濯機の使用やトイレの水洗化が進み排水路のないこの地区は、この生活排水を国道の側溝へ放流するようになり、側溝を流れる農業用水の汚れが始まりました。この様な時期がしばらく続き、以前とは格段に生活様式が向上した文化生活となり、水環境の悪化は目に見えるようになつきました。この文化生活の「ツケ」となる「汚れた水」を将来に残してはいけないという思いは日頃から誰でも持ち続けていたと思います。

平成に入り町の下水道事業が開始されましたが、排水路の無い岩下・矢倉地区は、この地区的水を清流に戻し再び虫の飛び交う里とするには農業集落排水事業が最適と考え度重なる地区内の住民参加による協議で他地区と異なる農業集落排水事業の導入を選択致しました。平成15年度には事業が一部完成し、供用が開始されました。竣工までの間には処理施設用地の地権者の方々の多大な協力と町当局・各地区の区長様・推進協議会員や役員の方々の大変なご尽力が有りました事に改めて感謝申し上げます。

『水、よみがえれ!キャンペーン』が行われました。

平成20年10月18日(土)、県民に水環境を守ることの大切さを伝え、下水道・農業集落排水・浄化槽をPRするためのイベント「水、よみがえれ!キャンペーン」が、群馬県下水環境課の主催で行われました。

4回目となる今年は、会場を太田市の「イオンモール太田」に移し、協賛団体と協力企業が下水道・農業集落排水・浄化槽の役割や仕組みなどを模型や写真パネルを使用しながら紹介したところ、約1,300名の入場がありました。

また、FMぐんま及びFM TAROによる公開生放送では、汚水処理をテーマに話芸家の江戸家小猫さん、環境カウンセラーの片桐光さん、地元で環境活動を行っている新田環境みらいの会の深澤久子さんをゲストに迎え、群馬県下水環境課の茂木課長とのトークショーも行われました。

※公開生放送終了後に、絵画コンクールの表彰式を行いました。



平成19年

5月・監事会及び監査
・役員会

6月・第17回通常総会並びに研修会(前橋市内)

6月~10月・農業集落排水に関する絵画コンクールの実施

9月・「ぐんま集排だより」編集委員会

10月・農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式(群馬県庁昭和庁舎 正庁の間)

11月・現地研修会(長野県中野市(集排汚泥と「廃オガ粉」を混ぜて発酵・熟成させる堆肥化施設)

2月・全国農業集落排水事業推進協議会第18回通常総会(東京都)

・農業集落排水事業にかかる情勢報告

3月・機関誌「群馬集排だより」(12号) 44,000部発行

平成20年

平成19年度 事業報告

平成19年4月
~平成20年3月

平成20年

絵画コンクール作品紹介

最優秀賞 (群馬県知事賞)

伊勢崎市立三郷小学校
6年生 岸本 哲実



水と豊かな大自然

雷鳴とともに、山や野、田に雨が降る。雨水は沢からダム湖へ注ぎ、そして川を下り、取水堰から水路を流れて、田に満たされる。田の水は再び川に戻り、大河となって海へと流れる。サンサンと輝く太陽の光は、水を雲へと変え、積乱雲となってまた雨が降り、大地に帰って来る。この途切れることなく続く自然の流れは、私たち生き物や大地に恵みを与えてくれる。この大自然、水を利用することで、私たちの生活が豊かになってゆくのだろう。目に見えないところにも、張り巡らされている水路は、人に例えると、毛細血管の様に、私達にとっても、農業にとっても“かけがえのない”存在です。

上毛新聞社賞

渋川市立長尾小学校
6年生 桐生 直崇

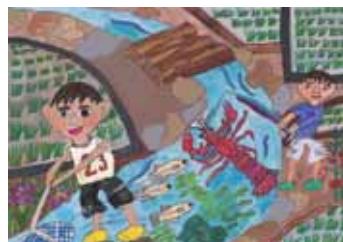


田んぼに集まる仲間

おじいちゃんの田んぼによくあつまるいろいろな生き物を描きました。

群馬テレビ賞

渋川市立小野上小学校
3年生 穴澤 昌樹



ザリガニとり

家族で川遊びをして、ザリガニとりをした一日でした。

エフエム群馬賞



渋川市立長尾小学校 4年生 小菅 千晴
ほたるがいっぱい
川の上にとんでいるほたるがきれいだったから。

連合会長賞



伊勢崎市立殖蓮小学校 5年生 黒石 実来
きれいな水でぐんぐん育て!
家の近くの農業用水と稻の緑がとてもきれいだったので絵に描きたいなと思いました。

協議会長賞



渋川市立長尾小学校 6年生 桐生 正崇
ざりがにをとったぞー
ざりがにをとった時のように描いた。

優秀賞

緒方 貴一 伊勢崎市立三郷小学校 6年生 夕焼
田村 芳 東吾妻町立東小学校 4年生 やつとれた!
渡邊 陽香 伊勢崎市立殖蓮小学校 2年生 おたまじくじとり
金田 泰成 吉岡町立駒寄小学校 5年生 ゆたかな水に生き物たち
長島 史苑 館林市立第九小学校 1年生 ざりがにとり
根岸 由果 伊勢崎市立三郷小学校 5年生 田舎の景色

佳作

出浦 克海 渋川市立豊秋小学校 2年生 テナガエビとアメリカザリガニたち
荻原 奈々 伊勢崎市立三郷小学校 6年生 緑の美しさ
大澤幸之助 吉岡町立駒寄小学校 3年生 魚が泳ぐきれいな川
岩崎 莉里 館林市立第九小学校 1年生 かわあそび
丸山 啓 吉岡町立駒寄小学校 5年生 田んぼの生き物
安原 健人 中之条町立沢田小学校 4年生 川で泳いだ

貴田 瑞華 中之条町立沢田小学校 4年生 夏の小川とたんぽ
野口 珠希 中之条町立名久田小学校 4年生 とんぼのためにも
飯島 大雅 館林市立第四小学校 4年生 はあちゃんの家の畑
角田 瑞菜 中之条町立名久田小学校 4年生 ゆたかな水と田んぼ

絵画コンクールについて

農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に、21世紀を担う子供達の視点から環境保全へのメッセージとして、絵画コンクールを開催したところ、8市町村、21小学校から199作品もの応募がありました。

審査については、専門知識者による事前審査のあと、本協議会役員、代表幹事、群馬県、土地改良連合会の関係者が審査し、最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞、優秀賞6作品、佳作10作品を決定しました。

絵画コンクール表彰式開催

最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞の表彰式を平成20年10月18日(土)に太田市「イオンモール太田」のセントラルコートで開催しました。

表彰式は、同日開催された「水、よみがれ!キャンペーン」の公開生放送後にとり行い、エフエム群馬のアナウンサーの進行により受賞者へ賞状を授与し、記念品を贈呈しました。



家庭での心がけ

- ◆洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆台所の調理くず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない



群馬県の汚水処理の現状

◆汚水処理人口普及率 68.5%
(農業集落排水、下水道、合併処理浄化槽
供用人口 1,378,106 人 / 県人口 2,012,151 人)

全国平均 83.7%
全国順位 37位 (47都道府県中)

◆農集排処理人口普及率 6.1%
(集排供用人口 122,339 人 / 県人口 2,012,151 人)
◆農集排処理人口接続率 72.2%
(接続人口 88,273 人 / 集排供用人口 122,339 人)

(H20.3.31現在)